



2022年は全国で過去最多 今こそストップ梅毒！

令和5年3月29日
富山県感染症情報センター
(富山県衛生研究所内)
(0766-56-5431 直通)

感染症発生動向速報

(令和5年第12週分・3月20日～26日)

《インフォメーション》

●梅毒

全国の梅毒患者報告数は2011年頃から増加が続き、2018年には7,000例近くの症例が報告されました(図;折れ線グラフ)。その後、2019年から2020年にかけては一旦減少しましたが、2021年以降には再度増加に転じ、2022年には感染症法が施行された1999年以降過去最多の12,964例が報告されました。年齢別では、男性は20～50歳代に、女性は20歳代に多くなっています。また、感染経路別では男女ともに異性間性的接触による感染が最も多く報告されています。

富山県の報告数も2011年以降、増加傾向が続いており、2021年には48例が報告され、過去最多となりました(図;棒グラフ)。また、今年は既に2例報告されています。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。感染経路は、菌を排出している感染者との性行為が大部分を占めます。梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚に感染すると、典型的には約3週間後に感染部位に初期硬結(しこり)や硬性下疳(硬結部位を中心に生じた潰瘍)が認められます(I期顕症梅毒)。これらの硬結や硬性下疳は無痛性であることが多いことが特徴的です。その後、数週間から数か月経過すると、全身の皮膚や粘膜に発疹が認められるようになります(II期顕症梅毒)。このI期とII期の梅毒を早期顕症梅毒と呼びます。多くの場合無治療であっても、I期の症状は数週間で、II期の皮膚粘膜病変は数週間～数か月で消退するため、医療機関を受診して早期に治療する機会を逸してしまうことがあります。無治療のまま放置した場合、第I期梅毒後数週～数年で髄膜炎などの早期神経梅毒が生じることがあります。また、感染後数年～数十年後に、皮膚や骨にゴム腫や心血管梅毒、後期神経梅毒が認められることがあります(晩期顕症梅毒)。感染した妊婦では、胎盤を通じて胎児に感染することもあります(先天梅毒)。近年、全国で先天梅毒は20例前後報告されており、2013年以前の概ね10例未満と比べ、高い水準となっています。

初期の症状である性器の潰瘍など、異変に気づいた場合には早めに医療機関を受診しましょう。梅毒を疑われる症状が自然消退したとしても、病態が進行中の可能性もあるため、医療機関を受診することが重要です。感染が判明した場合、パートナーも感染している可能性があります。パートナーにも早めに検査を受けるように勧めましょう。感染予防のためには、不特定多数との性行為を避けること、適切にコンドームを使用することが基本です。梅毒はペニシリン系抗菌薬による治療が可能な疾患ですが、4～8週間の抗菌薬投与後に抗体検査により治療効果を確認する必要があるため、自己判断で治療を中断しないことが重要です。梅毒は治癒したとしても新たな梅毒の罹患は予防できないため、治癒した後についても感染予防に努める必要があります。

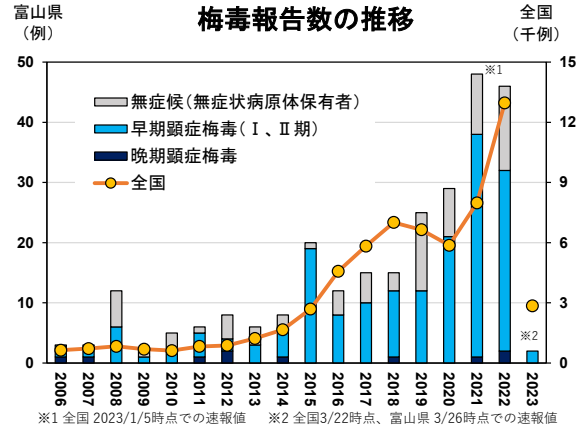
《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 404件(3/21(火)～3/27(月)公表分)
- 二類感染症 結核 1件(60歳代、男性)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件(80歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 アメーバ赤痢 1件(50歳代、男性、腸管アメーバ症)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1件(第11週診断分:80歳代、男性)
- 水痘(入院例) 1件(第11週診断分:50歳代、男性)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週(増減)	先週
1位	インフルエンザ	13.85(↓)	19.00
2位	感染性胃腸炎	7.24(↓)	10.69
3位	RSウイルス感染症	1.14(↑)	0.97
4位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90(↓)	1.07
5位	咽頭結膜熱	0.34(↓)	0.41
6位	突発性発しん	0.17(↑)	0.10



○感染症発生動向調査報告状況（令和5年第12週 令和5年3月20日～令和5年3月26日）

分類	疾患	今週報告分（第12週）						累積報告数（令和5年第1週（1月2日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市		計	新川	中部	高岡	砺波	富山市		計
二類感染症	結核					1		1	1	3	9	2	13		28
四類感染症	オウム病										1				1
	レジオネラ症			1				1			7	1	4		12
五類感染症	アメーバ赤痢					1		1					1		1
	ウイルス性肝炎										1				1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										2		3		5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										4	1	2		7
	侵襲性肺炎球菌感染症										1	2		2	5
	水痘（入院例）										1			2	3
	梅毒													2	2
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	77 11.00	72 14.40	146 11.23	192 27.43	178 11.13		665 13.85	606	1,175	3,130	827	4,473		10,211
	RSウイルス感染症	3 0.75	4 1.33	13 1.63	9 2.25	4 0.40		33 1.14	13	16	91	108	28		256
	咽頭結膜熱	1 0.25	3 1.00		4 1.00	2 0.20		10 0.34	24	11	19	24	33		111
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			12 1.50	14 1.40			26 0.90	11	2	132	1	114		260
	感染性胃腸炎	27 6.75	16 5.33	24 3.00	24 6.00	119 11.90		210 7.24	280	369	700	395	1,847		3,591
	水痘		2 0.67					2 0.07	1	9	7		15		32
	手足口病											3		5	8
	伝染性紅斑													2	2
	突発性発しん	1 0.25	1 0.33	2 0.25		1 0.10		5 0.17	7	12	21	6	12		58
	ヘルパンギーナ	2 0.50						2 0.07	12						12
	流行性耳下腺炎											4	1	1	6
	流行性角結膜炎								1			7			8
	インフルエンザによる入院患者（※1）	1		2	2	3		8	3	2	13	13	27		58

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和4年第36週（9月5日）～の集計です。

分類	疾患	3月21日（火）～3月27日（月）公表分						累積報告数（令和4年9月27日～）医療機関の所在地ベース							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症 ※2	74	27	78	66	109	50 ※3	404	12,979	6,686	27,800	13,353	37,602	10,615 ※3	109,035
		※2 県報道発表資料の公表日に基づく集計 ※3 陽性者登録センター分						累積報告数（令和2年3月30日～令和4年9月26日）感染者居住地ベース							
		※4 県外、居住地非公表分							11,484	10,019	37,643	13,404	54,143	506 ※4	127,199

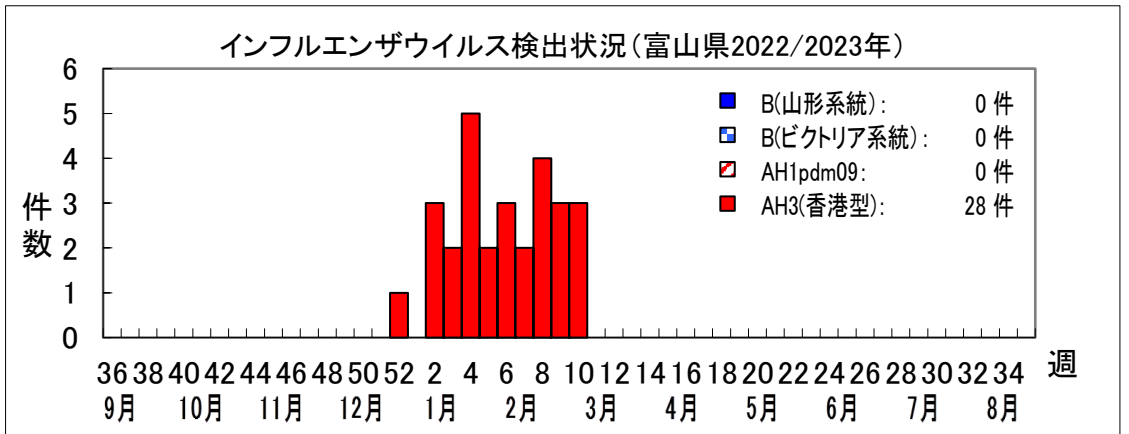
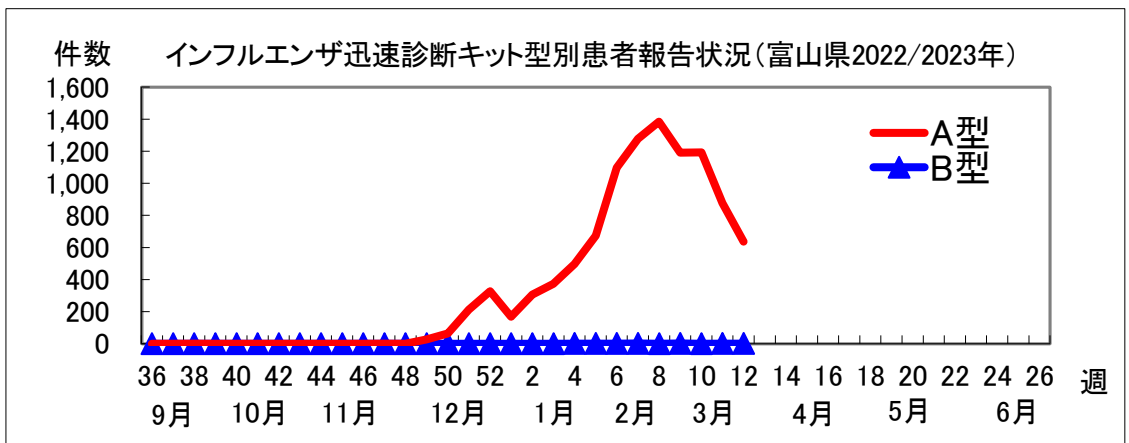
インフルエンザ定点における患者診断状況

このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。
 現在、下の表によると、A型が95.8%となっています。

第12週(3/20~3/26)：富山県 13.85人/定点 (単位:件)

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 ^{※2}	合計
		A型	B型		
新川	6 / 7	70	0	7	77
中部	4 / 5	67	0	5	72
高岡	12 / 13	144	0	2	146
砺波	7 / 7	189	1	2	192
富山市	12 / 16	167	0	11	178
富山県	41 / 48 ^{※1}	637	1	27	665
富山県累計(2022年36週~)		10,309	9	536	10,854

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が41か所あったことを示します。
 ※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



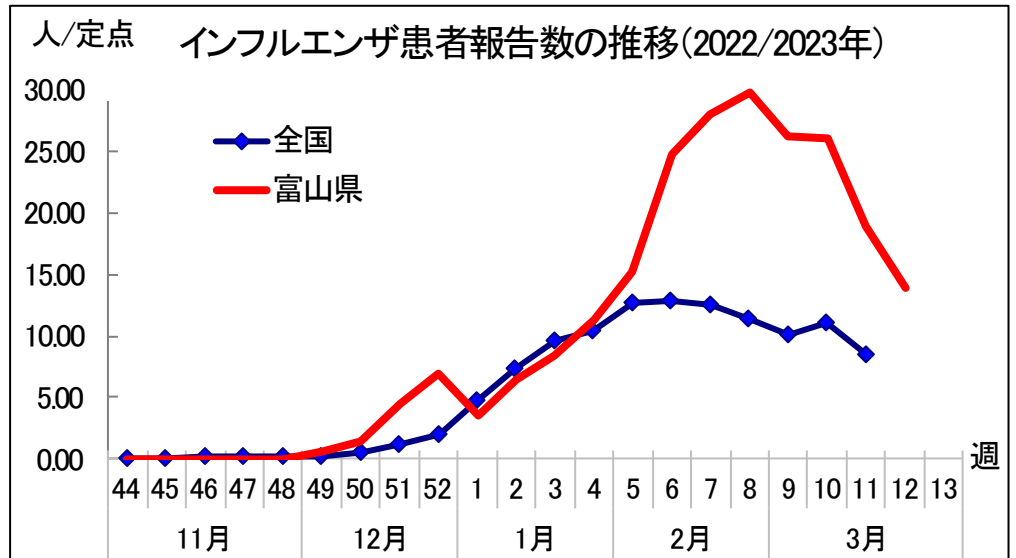


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第12週 (3/20~3/26) : 富山県 13.85 人/定点

新川 HC (11.00)、中部 HC (14.40)、高岡 HC (11.23)、砺波 HC (27.43)、富山市 HC (11.13)

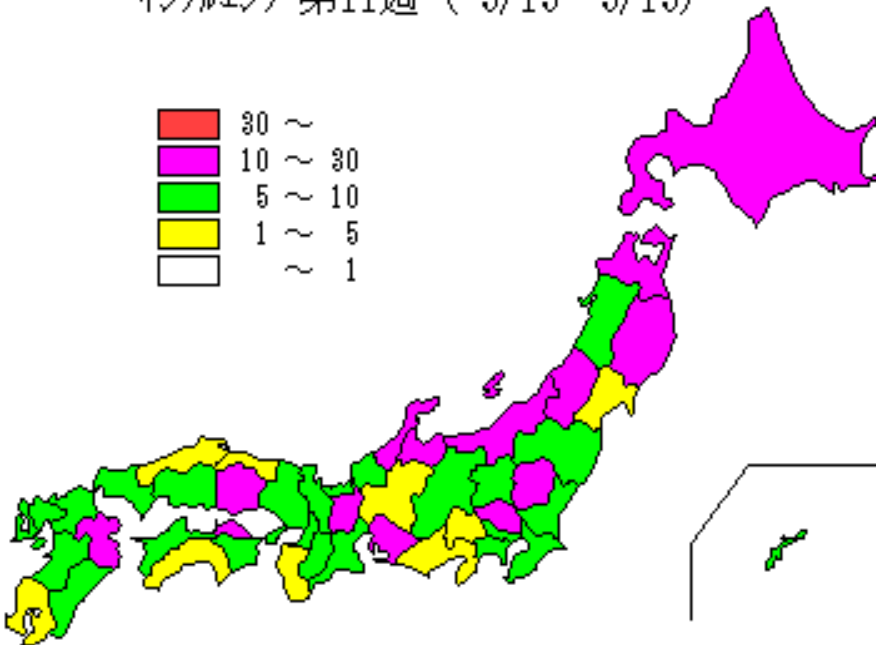
県内の患者報告数は減少傾向です。今年は例年と比べて流行が長くなっており、今後も流行が継続することが予想されます。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第11週 (3/13~3/19)

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 8.42 人となり、前週の 11.10 人より減少しました。42 都道府県で前週より減少しています。

インフルエンザ第11週 (3/13- 3/19)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	12.09	滋賀県	11.75
青森県	10.63	京都府	7.82
岩手県	16.73	大阪府	5.21
宮城県	3.84	兵庫県	6.61
秋田県	9.90	奈良県	7.25
山形県	16.14	和歌山県	4.73
福島県	5.93	鳥取県	4.55
茨城県	5.92	島根県	4.21
栃木県	12.39	岡山県	10.37
群馬県	8.93	広島県	9.69
埼玉県	10.31	山口県	9.33
千葉県	5.92	徳島県	6.14
東京都	7.75	香川県	10.19
神奈川県	8.58	愛媛県	6.82
新潟県	19.45	高知県	3.60
富山県	19.00	福岡県	9.94
石川県	15.54	佐賀県	7.31
福井県	9.08	長崎県	5.39
山梨県	4.32	熊本県	6.93
長野県	7.97	大分県	11.12
岐阜県	3.93	宮崎県	5.78
静岡県	4.62	鹿児島県	3.61
愛知県	10.02	沖縄県	9.02
三重県	9.46	全国	8.42